

平成 29 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【I, IV】
2 実践対象者	川崎町立川崎小学校 第1学年 38名, 第2学年 28名 第3学年 31名, 第4学年 42名 第5学年 42名, 第6学年 38名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学級活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック2020東京大会マスコット投票に向け、オリンピックやパラリンピックの理念と大会マスコットの役割について理解を深めるとともに、各クラスで1つのマスコットを選ぶ活動を通して、2020東京大会への参加意識を啓発するとともに、オリンピック・パラリンピックについての関心を一層高めることができるようにする。
5 取組内容	「オリンピック・パラリンピック2020東京大会マスコットを選ぼう」 (1) マスコット投票に向け、オリンピックやパラリンピックの理念と大会マスコットの役割について理解を深める。【学級活動 1 時間】 「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料」(スポーツ庁)や国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」等を活用し、指導に当たった。

オリンピック・パラリンピックのマスコットとは？

マスコットはオリンピック・パラリンピックのビジョンやバリューに加え、開催国の文化や魅力を紹介する存在として重要な役割を果たします。

	オリンピックムーブメント	パラリンピックムーブメント
ビジョン	スポーツを通じ、平等でより良い世界の実現をすること	パラアスリートが、スポーツにおける役割を果たし、能力を伸ばし、世界を笑顔にし活躍させることができるようにすること
バリュー	Excellence 卓越 Friendship 友情 Respect 敬意/尊重	Courage 勇気 Determination 強い意志 Inspiration インスピレーション Equality 公平

+

開催国ならではの文化や魅力

オリンピックマスコット (2016)
パラリンピックマスコット (2016)

過去のオリンピック・パラリンピックのマスコット

オリンピックマスコット	パラリンピックマスコット
<p>リンドン2012</p> <p>ウェンロック</p> <p>マンチゼル</p>	<p>北京2008</p> <p>フーゴローラー</p> <p>アテネ・フィリス</p> <p>アトランタ</p>

(2) 第1時の授業を受け、2020東京大会のマスコット候補の中から、自分が良いと思ったものについて、その理由をワークシートに書かせた。その記述から子どもの考えを集約し、次時の指導に生かした。



(3) 各クラスで1つのマスコットを選ぶ話し合い活動を通して、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会への参加意識を啓発するとともに、オリンピック・パラリンピックについての関心を一層高める。【学級活動1時間】

〈学習の流れ〉

(1) 本時の学習の見通しをもつ。

- ・話し合いを通して、クラスで1つマスコットを選ぶ。

(2) マスコットを決めるにあたってポイントとなることを整理する。



- ①オリンピック・パラリンピックの理念や価値が反映されているか?
- ②東京や日本らしさを感じるか?
- ③個性的でデザインが優れているか?
- ④多くの人に好まれるか?

(3) マスコット候補案を確認する。

- ・マスコットの動画を視聴する。



(4) 考えを同じくする人同士でグループになり、それぞれのマスコットの良さをまとめて発表する。【グループ活動】

- ・私はこのマスコットの〇〇がいいと思う。理由は〇〇だから。
- ・私たちのグループとしては、このマスコットを推薦します。理由は、

〇〇だからです。



- (5) グループの発表を受け、クラスとしてマスコットを一つ選定する。
- (6) クラスとしての最終意見を確認し、投票への期待を膨らませるとともに、2時間の学習を振り返る。



6 主な成果

- ・オリンピック・パラリンピックのマスコット投票に参加することによって、子どもたちが2020東京大会への参加意識と、オリンピック・パラリンピックについての関心を一層高めることができた。
- ・2020東京大会マスコット選定における話し合い活動の授業風景をテレビ局3社から取材を受けた。取材によって子どもたちの意識が高まっただけでなく、放送をとおして保護者や地域の方々にもオリンピック・パラリンピックが身近に感じることができるきっかけづくりとなった。

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

- ・本事業を学校だけの取組にとどめるのではなく、保護者や地域にも周知できるように、活動の様子についてメディアを使って広報したこと。

8 主な課題等

- ・指導資料は例示されているものがあるが、実態に合わせて差し替えたり修正したりする必要がある。
- ・メディアの取材に関する連絡調整（ねらいや活動の詳細の説明等）。

9 来年度以降の
実施予定

- ・特になし

